

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年2月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071001376
法人名	株式会社 サポート
事業所名	グループホーム ピアおざさ
所在地 (電話番号)	福岡市中央区小笹1丁目14番2号 (電話)092-525-7352
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年1月13日

## 【情報提供票より】(平成20年12月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 14人, 非常勤 1人, 常勤換算 14.5人

### (2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 <input type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3階建ての	2階 ~ 3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 180,000 円	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成20年12月20日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	59 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	博愛会病院・栗林循環器科医院・ゆみこ歯科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人は長崎に本社を置き、グループホーム等を多数経営している。事業所は大手通りを少し山手に入るとマンションが立ち並ぶ閑静な住宅街にあり、3階建ての白い建物である。1階が小規模多機能、2・3階がグループホームとなっている。事業所の特徴として、理念に基づき、明るく楽しい笑顔の耐えない施設を目指しており、外部から立ち寄りやすいようオープンな雰囲気作りを行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果は全職員に報告を行ない、改善課題は一つずつ改善に向け取り組まれており、サービスの質の向上に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員にサービス評価の意義や目的を伝え、全職員で自己評価の取り組みがなされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3ヶ月毎に開催し、民生委員・老人会長・自治会長・商店街会長・包括支援センター職員・家族会代表・施設長・小規模多機能管理者・ケアマネジャー・管理者等が参加している。会議内容は、外部評価の報告、人事異動・行事・介護相談・車椅子の貸し出し等の説明を行い、地域の方々より介護用品の相談や回覧板の活用等の助言をいただき、サービスの質の向上に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	面会時に本人の状況等をお話し、意見や苦情等があれば改善している。また家族から「相談コーナーを設けてほしい」との要望があり取り組みの検討をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民として町内会に加入している。小学校の運動会に参加したり地域のボランティアの受け入れ等を行っている。また回覧板に「介護相談サービス」の案内をだし、地域と交流の機会をもつように心がけている。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念として「一緒に ゆっくり 笑って暮そう」掲げているが、「地域密着」に関する理念の記載がない。	○	「地域の中でその人らしく生活できる」地域密着型サービスの役割を考え、理念の中にも盛り込まれる事が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念を十分に理解しており、理念に基づき、いつも笑顔で利用者と向き合い、一人ひとりの生活環境に合わせてその人らしい暮らしができるように支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年間行事である餅つきや夏祭り等には近隣の人々に声掛けを行い参加してもらっている。また小学校の運動会に参加したり、幼稚園に利用者が縫った雑巾を提供したり、地域との交流に努めている。また、町内会に加入しており毎月の回覧板に「介護相談サービス」の案内を出している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組んでいる。また、外部評価の結果を全職員で検討し、改善点は一つずつ改善に向け取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月毎開催し、民生委員・老人会長・自治会長・商店街会長・包括支援センター職員・家族会代表・施設長・小規模多機能管理者・ケアマネジャー・管理者等が参加している。会議内容は、外部評価の報告、人事異動・行事・介護相談・車椅子の貸し出し等の説明を行い、地域の方々より介護用品の相談や回覧板の活用等の助言をいただき、サービスの質の向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月の介護保険認定更新時には、市役所に状況報告や行事の招待を行っている。今後は役所から見学に来て頂き、助言等を頂き取り組む方針である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者がある。また必要と思われる利用者・家族には説明を行っている。管理者は研修を受け他の職員に伝達研修をしている。今後は職員も研修に参加できるよう検討している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に暮らしぶりや健康状態、金銭管理等は報告をしている。面会の少ない方は、請求書を送る際に、一日の様子を記入した記録を1か月分コピーして同封している。職員の異動等においては、新人職員の紹介を行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設置しているが、今のところ意見・苦情はない。面会時は話しやすい雰囲気作りを行っている。家族会の時に「職員の名前がわからない」等の意見があり、玄関に職員の写真を貼り即対応を行った。また、家族会開催の際は事前にアンケート記入をもらい、家族会時に改善や返答報告を行っている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者については、理解力のある利用者には説明を行っている。また離職した職員は、可能であれば時々ボランティアで来て頂き、利用者のダメージを最小限度にするよう配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から除外する事はない。また職員の能力や得意分野を発揮できるよう配慮している。職員の休暇や勤務変更、また有給休暇も、業務に支障がない限り、希望日に休めるように配慮されており働きやすい環境作りを行っている。スキルアップのための研修は、個人の休みを利用しての参加の為、今後改善できるように検討がなされている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者は人生の大先輩であることを念頭においている。利用者の生活歴を十分に把握し、一人ひとりの思いや価値観を尊重するように心がけている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加の取り組みは十分に実践されていない。法人内の伝達研修が主である。	○	今後、伝達研修のみでなく研修計画書を作成し、積極的に研修に取り組む事で他事業所との交流や情報交換等の場を持ち、職員の質の向上に努める事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>今まで同業者との交流は行われていなかった為、グループホーム協議会に加入するよう取り組み、サービスの質の向上をめざしている。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>2年近く利用者の新たな入れ替わりはないが、入居前には自宅や病院を訪問して本人との面会を重ねている。見学は本人・家族が納得されるまで体験利用をして頂き、馴染みの関係作りが出来るように取り組んでいる。体験宿泊もできる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者から、菜園での野菜の作り方を教わったり、昔の遊びや料理・野菜の切り方等を教えてもらっている。若い職員は利用者から「話の途中で席を立たない」等の礼儀作法を教わることもある。体調の悪い時は心配して声をかけていただき、人生の大先輩として学ぶ事が多く、色々な知恵をいただいている。</p>		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者とは、日々関わるなかで、本人の意向や希望を聞いたり、言動から思いを把握している。言動の少ない方や、思いをうまく伝えられない方は、家族来訪時に、情報を得るなどして、気持ちを汲むことに努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者は、利用者や家族の希望を聞いて、現場職員の気付きや意見を取り入れた介護計画を作成している。作成時の年月日が記入されていない。</p>	○	介護計画作成時の正確な年月日の記入が望まれる。
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の遂行状況や効果など、常に担当者と職員で評価し、状態に変化が生じた場合は、本人、家族等、必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人が運営する小規模多機能施設が実施している習字教室や音楽クラブなどに参加している。受診時に送迎の付き添いを行ったり、入院時には見舞いに出向いている。希望があれば、家族の宿泊や食事提供が出来るよう、受け入れの体制を整えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、在宅時のかかりつけ医への受診としている。状況に応じて、受診介助し家族へ報告している。職員に看護師を配置していない為、家族へ説明の上、24時間対応の訪問医療への移行を促している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点では対象者はない。重度化した場合や終末期のあり方については、設備や環境の整備の必要性を感じている。重度化及び終末期については、家族や関係者との協議を予定されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に、利用者の尊厳を大切にしている。声かけや介護については、利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう心がけている。個人情報の記録や取り扱いについては十分に配慮し、職員室の書棚に保管されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事、入浴、就寝など、日常生活の流れはあるが、利用者の体調に合わせ本人の意思を最優先に考えている。一人ひとりの生活時間にそって、個別に柔軟に対応している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや後片付け等、職員と利用者が一緒に楽しく行っている。菜園で採れた季節の野菜や、好みのものを献立に取り入れ、調理方法を、利用者の身体状況に合わせて行い、一人ひとりのペースで、ゆっくりと食事を楽しむことのできる支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調を確認しながら、可能な限り入浴時間や回数等、本人の希望に合わせている。拒否される方には、入浴が楽しめるよう、声かけに工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの、生活歴や趣味を把握しており、玄関には生け花や手作りペーパー細工の「えと」の牛が飾られている。読み聞かせ、紙芝居、唄等何か一つ毎日レクリエーションを行い、日常的に洗濯物干し、食事の後片付け、体操など、役割楽しみごとの支援が出来る。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、理容院、ショッピングセンターでの買い物、時にはコーヒー喫茶で楽しみ、植物園や季節ごとの花見、周船寺にコスモス見学にと、外出の支援が出来る。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、建物の構造上ビルの二階、三階に位置している為、危険防止のためチャイムでの出入りになっている。居室は利用者の希望で一名の方が自分で鍵を使用されている。ベランダへの出入りは個々の状態に合わせて対応している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、年二回昼、夜間を想定しての避難訓練を実施し、職員は避難経路、避難場所を周知している。運営推進会議を通して地域の方々へ協力を依頼し、緊急時の援助の為にネットワーク作りが予定されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の状態に応じて、おにぎり、普通食、ミキサー食等の食事形態で提供し、摂取量を把握している。医師に依る血液検査や体重の測定をし、併設施設の栄養士に助言を仰ぐなど、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内各所に、行事の写真や利用者の作品が飾られている。また、正月飾りや節分のポスターがあり季節が感じられる。居間にはソファを配置し、生活感を感じさせる調理時の香りが漂っている。トイレは車椅子での利用が出来るスペースがあり、居心地良く過ごせる工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は全室フローリングで、在宅時よりの使い慣れたベットや家具、思いのこもった仏壇、三味線、時計等を持ち込まれ、思い思いに配置されており安心して過ごせるよう工夫している。</p>		